

# P みなとの施設 ort

PortUS-  
gateway  
to the world

**みなとは、  
大自然の猛威から  
わたしたちのくらしを  
守っています**

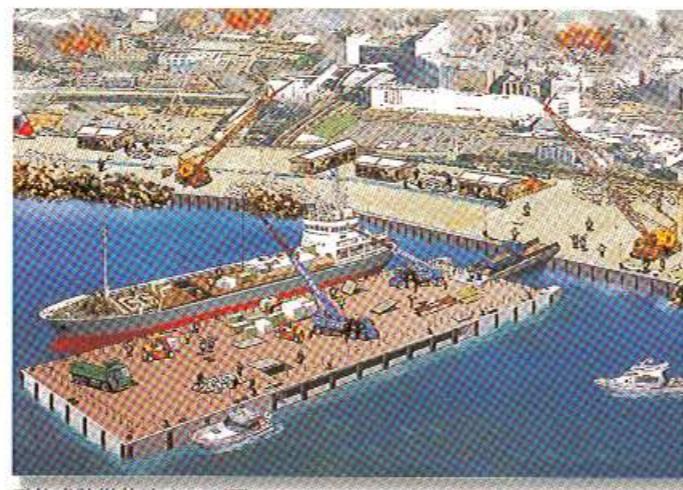
平成7年1月に起こった阪神・淡路大震災では、道路や鉄道とともに、当時日本一、世界第6位の国際コンテナ港であった神戸港にも甚大な被害を及ぼし、わが国経済だけでなく、世界の物流にも多大な影響を与えました。

こうした地震の被害に備え、全国各地のみなとでは災害に強いみなとづくりが行われています。巨大地震が起きた場合、道路、鉄道などは陥没や脱線などの懼れがありますが、海上輸送であればそうした被害を受けずに安全に人や救援物資を運ぶことができます。

また、防波堤は、船舶の安全な停泊や貨物の積みおろしのために港内を静かに保つとともに、台風や低気圧による高潮や地震による津波の被害を最小限に止めています。

みなとは、私たちのくらしを災害から守っているのです。

## 地震から守る



防災拠点のイメージ図

## 波浪から守る

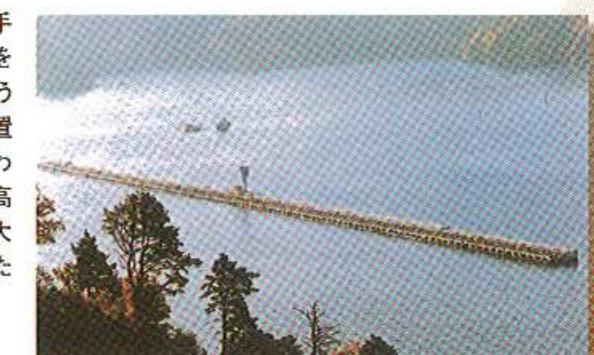


低気圧や台風がたびたび訪れ、気象条件の厳しいわが国では、海が荒れる場合も多々あります。荒天時でも、波を防波堤が防いでいるおかげで、みなとの中では船が安全に停泊することができます。



チリ地震津波による引き潮(大船渡港)

地震多発地帯であるわが国では、地震によって生じる津波も私たちの生命や財産に多くの被害を与えてきました。昭和35年南米のチリ沖の地震で発生した津波は、地球の反対側にある日本にまで太平洋を越えて達し、北海道から沖縄までの各地に被害を与えました。



津波の被害を受けやすい岩手県の釜石港では、穏やかな海を維持するため、水深63mという世界最大水深の防波堤が設置されています。海上から見るとわかりませんが、この防波堤は高さが70m近い巨大なもの。強大な波の力を受ける防波堤は、たいへん強固に作られています。